

E-8

あ つく えんせきそうもけい 編んで作る円石藻模型

えんせきそう うみ ひょうめん い そうるい おく まんねんまえ ちきゅう せいそく
円石藻は、海の表面に生きている藻類で、2億5000万年前から地球に生息しています。

イギリスにはドーバー海峡に面した白い壁のように見える崖があり、「白亜の壁」とし

て知られています。この白い崖のほとんどは、昔の海の底につもった円石藻の化石から

なっています。昔は、この白い岩石をチョークとして使用していました。その化石は

せっかいしつ かせき ちそう ねんだい かんきょう じゅうよう て
石灰質ナノ化石といい、地層の年代や環境をしる重要な手がかりとなります。

こうごうせい せいかつ えんせきそう さいぼう まわ よ だえん
光合成をして生活をする円石藻ですが、その細胞の周りにコッコリスと呼ばれる楕円

えんばんがた こうぞうぶつ ほそ いと つか もけい あ
や円盤形の構造物をくっつけています。細い糸を使って、このコッコリスの模型を編み、

きゅう はりつ えんせきそう もけい つく きぼう ひと けいたい
球に貼付けて、円石藻の模型を作ってみましょう。希望する人は携帯ストラップにもで

きますよ。



えんせきそう でんしけんびきょうしやしん
円石藻の電子顕微鏡写真 (JAMSTEC



あ つく えんせきそう もけい
編んで作る円石藻の模型

HP より)。おお 大きさは0.005~0.01 ミリ。